

10月に入りました。新しい勉強の予定を立ててみましょう。10月1日に全国向けの特別講座で作成した私の資料を掲載します。

10月に入ります。各クラスの開講が始まりました。すべてのクラスは試験合格のための講座です。まずは楽しく学びましょう（なるほど！そうなのか。）。知識を学び法律を知れば合格できます。そしてあなたの人生は大きく変わります。

### ■初めての学習の方

まず最初に社労士試験は努力の試験です。ある程度の勉強時間の確保と合理的な勉強方法が必要です。社労士試験は日本語の「言葉の試験」です。

推定、みなし、認可、許可等。初学者はここで??です。

私達が使っている日本語（当たり前）ですが、法律の世界では独特な意味があります。また、科目が増えるごとに、各科目の専門用語が洪水のごとく噴出してきます。

どんどん出てきます。

#### ★初めての方への質問

- ・試験科目の配点を確認しましたか？
- ・仕事と勉強の両立は可能ですか？

#### 1 心構え・・・受験生になりきること。試験に出る個所を勉強する

試験科目全体の法律の量は膨大です。本気にならないと合格できません。社会保険労務士試験で問われる内容は実に細かい。しかし、学者になってはダメ。難解な個所は無視します。実は過去問の繰り返しで、試験で問われている内容を絞り関連事項を勉強しましょう。

#### 2 合格への条件・・・自己管理能力

一番大事なのは「自己管理能力」です。今年絶対合格するという気持ちで学習しましょう。

最初から全てを理解し、記憶することは現実的ではない。まずは、進度表に即して、繰り返しテキストを読むことから始めましょう。多少の疑問点があっても先に進むことです。

#### 3 限られた勉強時間を有効に活用する。

受験は作戦をしっかり組立てスケジュールを組み、毎日1時間でも継続して学習を行うことが大切です。

#### ★初学者の勉強の進め方

まずは労働基準法から開講します。有給休暇。残業時間等この科目は社会人に身近な法律です。労働基準法の学習で法律条文や通達等の「法律の仕組みに慣れ」ましょう。1条。2条3条・・・です。早々に、過去問にもチャレンジしてください。

次の労働安全衛生法が終わると、いよいよ本格的な保険科目がはじまります。労災保険法・雇用保険法・健康保険法・厚生年金保険法・国民年金法等です。

ポイント・・・保険科目が社労士試験の中心です。

★保険科目には共通の学習方法がある。

保険と言えば、一般的には、いくら保険料を払い万一の事故の場合いくら出るかが保険ですね。基本的には公的も同じですが、強制保険という性格や国庫負担がある点などが特色です。

- 1.保険科目であれば誰が（政府等の保険者）が行い
- 2.何処に（適用事業所）届出を出すのか。
- 3.どんなとき（保険事故）
- 4.いくら位（給付内容）支給されるのか。
- 5.どんな場合は出さないのか（支給停止）
- 6.保険料はいくらか（保険料）
- 7.公費は入っているのか（国庫負担）
- 8.保険給付のルールは（通則）
- 9.何時までに（時効）
- 10 不服があれば（不服申立）

保険科目には 1～10 の大きな流れがあります。おおまかに流れと用語を掴めば全体が理解できます。暗記はその後から行います。

## ■初級クラスの来年合格に向けてのプログラム

★10月から4月まで

1 予習・・・各科目の講義前には予習は必要です。大まかな内容で結構です。

基本的には、条文番号に沿って読み込みましょう。

2 復習・・・条文→趣旨→解説へと進みましょう。また、各テキストの図表等を利用しましょう。

3 問題集・・・10年分の問題集を使います。まずは、解いてみましょう。5年分でもいいです。わからなくても、進んでみましょう。例えばある法律の法5条の問題が5つあれば、まずは最初から解いてみましょう。そして解説を読み、また5つの問題をときます。これを5回繰り返せば5条の問題の論点が理解できます。そして、法律条文に戻りましょう。これを繰り返すことで、しっかりとした、条文内容が理解できます。

★5月から7月前半まで

模擬試験の時期です。5月6月7月と3回ほど実施されます。これに合わせて、総復習に入ります。5月はと労働科目を中心に勉強しましょう。

6月は社会保険を中心に復習してください。そして、7月は総まとめの時期です。

★7月後半から8月

第3回目の模擬試験で仕上げに入ります。この時期は知識の定着です。使いなれた問題集と、テキストで知識の総仕上げに入ります。

## ■再受講生の方

### ★再受験生・・・前回の試験体験に合格のヒントあり

お疲れ様でした。前回行われた本試験の結果が思わしくない方は、早速今年の試験結果分析してください。どの科目が弱いのか。なにが理解できていないのか。しっかりと前回受験した問題を検証してください。そして**自分の課題**を出してください。例えば、問題演習の時間が足りない。あるいは特定の科目が苦手等。

### ★なにが自分に足りなかったのか考えましょう。

この反省が来年の合格を呼び込む勉強です。例えば、合格点が46とします。自分が44点の場合、あと2点はどこが問題なのか、冷静に分析してください。例えば、文章の読み間違いが多い。基本事項が記憶されていない。問題量が少ない。時間配分が間違えている等です。

### ★前回の自己分析をはっきりと行い、時間をかけて確実な合格するための学習を早期に立ち上げましょう。

①今年の試験を検証したか。

②次回の試験の対策は

③得意な科目と苦手な科目

### ★今回受験した問題を点検しましたか？

前回の自分の答案内容を細かく分析してみましたか？

1. 基本書のどこから出題されたのか
2. 答案練習の類似問題
3. 取れる問題で失点した箇所

### ★あなたの弱点科目は・・・経験者の強みを出していますか？

4. 受験前からの苦手科目・不安科目
5. 模擬試験での点数と今回の本試験点数

### ★受験直前でやり残していたことを思い出して整理してください

6. 7月の直前期に戻し遣り残していた内容があれば書き出す
7. 数字・用語・横断整理等をチェックする
8. よく間違える問題

## ■まとめです。

・10月から4月まで 知識の再確認 5月から6月まで 模擬試験

・7月から8月まで 仕上げ また合格への登山が始まります。

前回の本試験ではある程度点数が取れた。まあ-直前期になってから頑張ればなんとかなるだろうでは、再びその時期での時間が足らなくなる可能性があります。直前期にはいると心理的な焦りや不安がでてきます。早期のうちから大まかな年間カリキュラムを作成し、勉強の方針と戦略を立て学習を進めて下さい。再受講生は落ち込む時間はありません。1.2点で合否が分かれます。今回の合格への登山は前回の経験を確認して私と一緒に登りましょう。まずは1年を大きく3つに分けます。

本試験までの年間スケジュールの大枠を決めましょう。仕事の予定もしっかり組み込みましょう。1年という長丁場の戦いです。スケジュール作りは、まずは大まかに組みましょう。

### ★10月から4月まで 知識の再確認

各科目へ進む場合、まずは最初に、問題を解きましょう。これが再受験生の勉強ではないでしょうか？それも講義カリキュラムにあわせて一気に解きましょう。答え合わせはしません。ただ解いていくのです。4回の講義であれば4回同じことを繰り返します。これで8月の試験直前の知識に戻れます。そして講義が終われば、講義箇所もテキストの読み込みです。確認テストに合わせて再び過去問を解きます。今度は解説をしっかりと読み込みます。

### ★5月から6月まで 模擬試験

模擬試験は知識をまとめる大事な試験です。第1回目は労働法のそうまとめを行う。

不服申し立て、通則、雑則等の他の科目と重なる箇所は省略する。

**暗記すべき数字等の内容も一度ここで覚える。**

第2回目の模試は社会保険を中心にまとめる。健保、厚年等は適用関係や保険料の仕組みに類似点があるので科目横断でまとめる。

### ★7月から8月まで 仕上げ

第3回目の模試では通則関係や労働一般常識、白書等のまとめに入る。一般常識の勉強は法律系を中心に学習をすすめる。

・受験を決めた以上最初の目的を見失わないこと。

再受講生の方はモチベーション管理が大事です。再受講生のなかには複数回の受講生の方もいるでしょう。決して後数点だから直前に追い込めば何とかなるはダメです。今年の勉強量の1.5倍は必要です。前回勉強した知識や経験を無駄にしてはなりません。